

お前期総括会議を終えました

仲嶺 真弓

9月27日(日)9時から、前期総括会議をおこないました。アトム共同福祉会では年2回(9月と2月)、アトム・つばさで働く職員が合同で総括会議をしています。保育園には、保育現場は勿論の事、給食室、看護師、事務室という部署があり、成り立っています。各部署の半期を振り返り報告を共有し、これからは繋がることを考える会議です。今回も自分たちの仕事に真摯に向き合い、もがき、涙し、涙を笑いにかえたり、それぞれの気付きがあったり…。それぞれの気付きを糧に、後半も保育園ができることを考えていきたいと思えます。以下は、会議資料の私の巻頭です。

本当に大切にしたいことを見極める

2020年度のスケジュール帳をめくると、1週間の予定表ページの白さが目立つ年度初めだった。新年度早々、新型コロナウイルス感染症が猛威をふるい、未だかつてない現状に追われていたことがよくわかる。確かにあった怒涛の日々だったのに、スケジュール表に書き残す余裕さえ無くしていたことが見て取れた。それまでの当たり前が、当たり前ではなくなった現状に、どこか別世界にタイムスリップしたように、先が見えないことが多すぎて不安にかられていたと思う。けれど、立ち止まることは許されず、ただただ、状況把握と対策を考えることだけに神経を注ぐ毎日だった記憶が蘇った。まだ緊急事態宣言が発令される前に、「何で、職員全員きっちり、マスクをしないのか？ 保護者からも聞かれるねん。」「保育時間についての保護者対応はいつも担任ばかり…。園長からも指針を示してほしい。」という職員とのやり取りもあった。緊急事態宣言中でも、勤務できると意思表示してくれた職員で体制を組み、休園することなく開園し続けることができた。日にちが経つにつれ、不安を抱えたままの勤務はどの職員も疲労困憊の表情は隠せなかった。自宅待機の臨時職員が休み前に「いつでもSOSしてくれたら勤務できます。」と声をかけてくれた人もいたので、改めて出勤を依頼し、職員も順番に休ませることができた。でも久々に会った自宅待機の職員の何人かが、ガリガリに痩せていた。その姿から、自身の心配と勤務にあたっている職員に対しての申し訳ない思いとの狭間で葛藤していたことも理解できた。きっと、辛いのは職員だけじゃなく、保護者も園児も一緒。こんな時だからこそ、保育園に来られず離れていても、共有して楽しめることを発信しようと職員有志で立ち上げた動画。それを見て早速いいね！を返信してくれた保護者のメッセージに、反対に職員が元気をもらえた。辛い時こそ笑うことの大切さをかみしめた瞬間だった。それぞれの場所で、それぞれの思いを抱えて過ごした日々。どんな状況であっても、人を思いやる心を忘れずにいたいということ。怒って泣いてけんかしても、相手の状況に思いを馳せ考えてみることの大切さを、身をもって体験した日々でもあった。コロナウイルス感染症との付き合い方が確立するのはまだ途上で、今まで当たり前にしてきたことができなくなったことをきっかけに、これまで自分たちがしてきたことがどうなのか…大事なことは何かを見極める機会をもらえていることもたくさんあるのだということに気付かされた。新型コロナウイルス感染症対策について、各部署会議でも幾度となく考え、そのたびに“正しく怖れる”ことを念頭に置きながら話を進め、各部署の状況を知り合いながら、それぞれができることを戸惑いながらも真摯に追及し考え続けている。保護者対応としては、子どもたちの健康な体づくりの一環として、週6日の保育利用が子どもにとってどうなのか…、子どもは元気というけれど、子どもなりに疲れはあるから、仕事が休みの日は体調を崩す前に、子どもも休息をとれないか。休むことが無理なら、せめて休みの日は短時間の保育利用にするとかできないかというやり取りをしようとして職員間で話し、各部署で連携をとりながら保護者に家庭の状況も聞きやり取りをしている。時には保護者との意思疎通がうまくいかないこともあるが、それも想定内。子どもと親、双方を支援するという役割があるということ念頭に置き、本当に大切にしたいことを見極めながら、今後も丁寧にやり取りを重ねていきたいと思う。

10月17日(土)は4・5歳児の運動会です。

コロナ禍ですが、運動会を開催します。開催するにあたり、観覧者の人数をどうするかについても職員で話し合いを重ねてきました。園で人数制限を提示することは容易いことなのですが、それでいいのだろうか…。保護者はどう考えるだろうか…。特に保育園の運動会が最後となる5歳児保護者は、このコロナ禍でできないこともある中、いろいろ思いがあるだろうと想像できたので、まずは、観覧希望人数を聞いてみよう。結果、予想外の大人数なら制限をかけることは必須になるけれど、そうではないかもしれない。アンケート結果を見て次を考えようと思った次第です。

コロナの感染を考えると、行事を全て中止にして、やらないことが一番安全策なのだと思います。けれどコロナを恐れて何もしないことが本当にベストなことなのか、コロナ以外のリスクはないのか、保育園の役割はなにかと考えたら、行事を全て中止にする選択はありませんでした。行事を開催するには、園だけで考えるのではなく、保護者の理解と協力が必須です。また、家庭によっても安全と思う基準は違うので、コロナを正しく恐れ、各家庭でより安全と思う観覧の仕方を考えていただきたいです。よろしくお願ひします。